

## 1 インタビュー

あらゆるものを賢くつなぎ、街づくり、  
地域産業活性化に役立つ新たな社会価値を創造

2021年4月1日に森田隆之氏が社長に就任したNECは新体制の下、“2025中期経営計画”、および同社が創造する社会価値で実現する未来を描いた“NEC 2030VISION”（ニーゼロサンゼロ）を発表した。このビジョンの実現に向け、“NEC Smart Connectivity”ブランドの高度ネットワーク（以下、NW）サービスでお客様や社会のデジタルトランスフォーメーション（以下、DX）に貢献する取り組みについて、ネットワークサービスビジネスユニットを率いる網江貴彦執行役員にお話を伺った。

人にやさしい社会をいかに  
実現するかを示した新たな  
ビジョン“NEC 2030VISION”

—まず“NEC 2030VISION”について教えてください。

**網江** 「安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指す」というNECの存在意義（Purpose）を、「暮らし」、「社会」、「環境」にそれぞれ当てはめたビジョンです。具体的には「人に寄り添い心躍る暮らしを支える」、「個人と社会が調和し豊かな街を育む」、「地球と共生して未来を守る」などです。個人的には「人にやさしい社会をどう実現するか」を示したものと認識しています。

—このビジョンをどのように実現していくのでしょうか？

**網江** 街づくり、地域産業活性化、インフラの高度化といった領域と関係性が高いと言えます。近年デバイスやサービスの多様化が進み、いろいろなところでデータが蓄積されるようになりましたので、“NEC Smart Connectivity”でそれらをつなぎ、イノベーションにより新しい価値を

創造します。具体的にはNECの通信技術、顔認証をはじめとする画像処理技術、自然言語処理技術を使い、いわば「リアルをバーチャルに持ち上げる」ことが1つの鍵になると考えています。近年注目されているデジタルツインに通じる部分があり、従来の「必ずリアルで人が判断して行動しなければならない世界」を変える取り組みと言えます。

NW、データ流通基盤を  
保守・運用まで含めて提供

—貴社ならではの特徴はどのような点でしょうか？

**網江** NW、生体認証や画像処理を含むデータ流通基盤を運用・保守まで含めて提供できることです。その上で、本当に人にやさしい街づくりがどうあるべきかを追求している、という点に独自性があると考えています。また独占的にデータを管理し支配的な力を持つことを目指すような取り組みではありません。NTTグループをはじめ、さまざまなパートナーと協力して「人にとっての本当の価値は何か」を追求し続けることを大切にしています。



NEC 執行役員  
網江 貴彦氏

## OX/CXの向上を重視

—特に力を入れているのはどのような点ですか？

**網江** 2つの点を重視しています。1つはOX（Operational Excellence）、業務プロセスの革新による企業価値の向上です。コストリダクションも目的の1つですが、なによりも就労人口の減少に危機感を感じているお客様が多く、対策が必要とされています。もう1つはCX（Customer Experience）、人に着目し暮らしをより良く変える取り組みです。たとえば高齢の単身者が救急搬送された際、本人の希望に添わない医療を施されるといったことは避けなければ



図1 NEC 2030VISION 実現に向け OX と CX を向上

いけません。予め本人の意思を確認しておき、必要な時に参照可能にするためのエコシステムを、医療機関と協力し、行政も巻き込みながら進めています。また救急搬送された人に意識がなくても円滑に本人を確認できるように、NECが得意とする生体認証を活用する取り組みも進めています。

## 従来つながっていなかった情報をつなぎ新たな価値を創造

——取り組みの現状について教えてください。

**網江** 近年はデータ活用に熱心なお客さまが増えています。加えてコロナ禍により生活者にとっての価値に対する意識が変化し、「いずれ起きるであろう」と考えていた変化が急速に進むようになりました。これに伴い、情報連携に関する意識の変化も加速したと考えています。

さまざまな取り組みが進んでおり、自動化や効率化などによりお客さまに重要な価値を提供できている部分もすでにあります。具体例について、本特集の中でも紹介します。しかし個々の取り組みがサイロのように独立しており、イノベーション

を起こすという意味ではまだ足りないと感じています。たとえばドライブレコーダーの記録に基づき優良ドライバーであるかを自動で判断し、保険料を下げるといったような、従来はつながっていなかった情報やサービスをつなぐことによる新たな価値の提供をもっと進めていきたいと考えています。

——新たな価値を提供していく上での課題など、お聞かせください。

**網江** 「今必要な情報は何か？」と聞かれても、具体的な回答をいただける方は少ないのではないのでしょうか。そうした方々の期待を超える価値を提供するため、お客さまと一緒に模索しているところです。

また、「バリューアップ」を目的とする取り組みは得られる価値との因果関係の証明が難しいため、お客さまとしては因果関係がシンプルな「コストリダクション」を目的とした取り組みの方が投資しやすいという課題があります。たとえば顔認証技術を活用した高度な防犯ソリューションによりテナントの賃料を上げることが可能になる、といったように、「これを理由に導入が進む」と言えるようなKPIを設定できなければ、ビジ

ネスとしては難しいと言えます。こうした点についてお客さまとも話をしながら、「バリューアップ」についても訴求していけるよう、実績を増やすことに力を入れています。

## 安心・安全・効率に加え「公平」を重視することが NEC らしさ

——今後に向けた抱負などお聞かせください。

**網江** 「安全・安心・公平・効率という社会価値の創造」の中でも特に「公平」を重視しているという点が NEC らしさではないかと考えています。「人にやさしい」ためには、たとえば地域格差をなくすことが重要です。そうした公平な社会の実現に役立つサービスを提供していきたいという思いがあります。そうした取り組みを通じて人にやさしい日本版の街づくりを実現し、それをいかに世界に広げていくかを考えることも必要です。

データを活用してリアルをバーチャルに持ち上げ、新しい価値を創造してお客さまに訴求していくというミッションにますます注力するのですが、検討すべき要素は多数あります。たとえばインフラについては、既存のインフラを維持すべきか、人口が減少するなかでどう高度化していくかといった課題の検討も必要です。こうした要素を考慮しつつ新たな価値を創造するにはPDCAを回していくしかありません。さまざまなステークホルダーの皆さんと協力し、マネタイズまでしっかり考えた取り組みを進めていきたいと考えています。

——本日はありがとうございました。